地域学習の教材化について

足利市立山辺小学校教諭　飯　塚　　香

1 はじめに

地域とは，地表の一部分で一つのまとまりをもつ範囲をさす。一つのまとまりの観点をどこにおくかによって，大きく形成地域と実質地域に分けられ，実質地域はさらに均等（等質）地域と結節（機能，統一）地域に分けられる。地域の分類とその用語についてはまだ定説がない。したがって昭和43・44年度の小中学校学習指導要領に付随して発行された文部省版の指導書でも，小学校で結節地域と，呼んでいるものを中学校では，機能地域と呼んでいた。

地表には，一つとして同じ場所は存在しない。校舎の南側と北側の雑草を調べても，そのことはうなずける。まして，日本全土や世界全体についてみれば，「所変われば品変わる」という我が国で古来言い伝えたことばのとおりである。しかし，そうであっても，地表はいくつかのまとまりのある部分によって構成されていることも事実である。そこに，「地域」という見方が生まれる。地域はそれぞれの特性を有しており，これを「地域性」と呼ぶ，人々は地域性に即して，また地域性の変容に応じて生活している。

子どもは好むと好まざるとにかかわらず，大人社会の価値観に大きく影響をうけるものである。特に，小さい子どもは，両親やその近隣の人間関係において価値意識が形成されるであろう。現在の山辺小の児童達も，八幡ダイコ，八木節等地域に対する愛情のあらわれであろう。つまり具体的な事実を通して，地域社会の姿を追求するこれが大事なのではないだろうか，そこでそれぞれの土地には，諸々の事物や事象があるのではないかと考え，学年的な成長に結びつけ子どもの生活から生れてくる関心を基に，その子なりに個性的な芽をふくらめる教材も，毎日見慣れているために無自覚に過ごしてしまうのではないだろうか，今まで無自覚に過ごした教材をほりおこしたく，このテーマを選んだわけです。

2 域地の単元構造にあたって

今回の改訂指導要領の特色である。観察や表現活動を極めて重要なものとして規定している。

第一学年「社会的事象を具体的に観察させ，効果的に表現させる。」

第二学年「…具体的に観察させ，効果的に表現させる

第三学年「社会的事象を具体的に観察させるとともに，具体的な資料を効果的に活用させる。」

第四学年「社会的事象を具体的に観察させるとともに，具体的資料の特徴を考えながら効果的に活用させる。」

第五学年「…社会的事象についての基礎的資料を効果的に活用させる。」

第六学年「…基礎的資料を効果的に活用させる。」

とくに1年2組は事物を社会事象として「気付かせる」ことが必要である。4年～6年においては基礎的資料を手に入れたり，学習課題を思考する時期であると考える。また観察学習活動を予想した

場合，学年の主な単元をあげてみますと，

第1学年の身のまわりの社会事象の具体的な観察として，「きんじょのようす」における観察から学校の近所の観察，道路の観察，学校で世話になる人々の観察，自分たちの家の近所の変化のようすをとらえる。

第2学年のものごとの比較しながらの観察として，「農家のようす」の観察，納屋にある農業機械器具，庭にある苗床，農家の人のしごとぶりと服装，肥料，農薬などである。

第3学年の数量的な観察として，学区域を中心とした分布現象の観察で「学校中心とした地域」の分布観察から，住宅の多い住宅地帯の観察や田や畑の多い所の観察，農家のあるところの観察などである。

第4学年の郷土の観察で，直接観察を多くしたいが，県内の産業のさかんな地域の観察を通して，地域内での事象相互の関連観察，総合的な観察をする。

第5学年の「わが国の農業」を4年までの観察を土台にして資料をもとに地図，人口分布図，年表統計の間接観察でとらえる。

第6学年は「各種資料の効果的な活用」をもとに政治のしくみ，歴史のようすから地域の観察を考える。

社会科は他の教科とちがって，常に社会の変化に対応した授業を組織する必要があると考える。

3 研究の意図

① 教材の吟味

よく「社会科はむずかしい」「よくわからない」「つまらない」という子どもの声があるが，教師がはたして子ども達が主体的に活動できる教材を与えただろうか，知識主義になっていないだろうか，という反省から子ども側に立つ教材を考えたわけである。そこでねらいを次のように考えてみました。

①学習における子どもの興味，関心が高まる

②教師も興味関心を持つ

③子どもをより具体的な認識を導く

④子どもに問題意識をもたせる

⑤地域の将来について関心を持つ

子ども達が班で実際に調べに行きそこで驚き感動が必要だろう。そこで，「なぜ」「どうしてだろう」 関心をもたせることができる教材でなければならないだろう。

4 指導の実際 5年

(1) 足尾鉱毒をとりあげた意図

あるとき沈砂池の話しが出て「なぜできたのだろう」と聞くと全然しらない「沈砂池はしっていますけれど」の返事である。そこであらためてクラスの児童に聞いてみますと同じように「しらない」とのこと，そのことから沈砂池が，なぜできたのかという事実を調べることにより，足利（山辺地区）の人々は，どのように過ごしてきたのだろうと，問題意識をもち，公害の原因は防ぐ方法は，地域の人々は，児童達が自主的に追求していくまた身近なため具体的に観察できるという点，また身近な沈砂池の問題から足尾の鉱毒に，それが日本全体の問題へと発展できる教材と考えたわけです。又子ど

もたちが，社会科を学ぶ楽しさを知り，ひとりひとりが，いっそう着実に育つことができるだろう。子どもたちが，主体的に追求できると考え，又公害問題で大切な，人間優先の考え方，住みよい環境は，みんなの力でつくりあげなければならないということを，5年生なりに「人間の生き方」を学ばせたい。

⑵ 公害についての子どもの考え方（具体的公害の事例に対して）

◦産業の発達はいいけれど，そのため空気がよごれ，人々に害を与える。

◦公害は川の水をよごし，魚や小鳥が，住めなくなり，自然をおかしている。

◦公害は土をよごし，人体や農業生産に害を与えている。

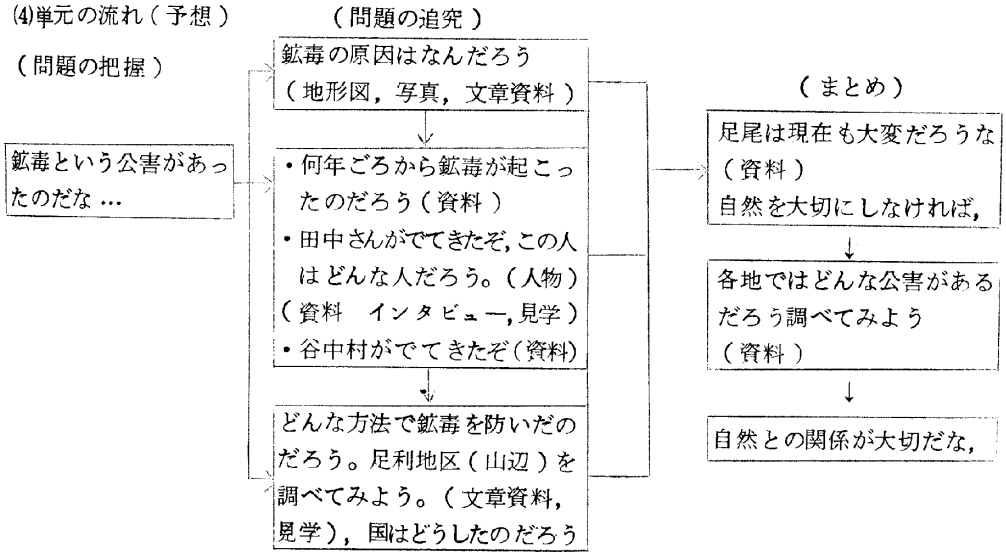
事例に対して，「かわいそう」「おそろしい」「やだな」「産業が発達してもこれではこまる。」工場に原因があることは，わかっているようである。

⑶ 「公害をなくすために」の指導計画

ねらい

産業の発達によって，人々の生活環境をこわしたり，生命にまで影響を与える公害がおきている。人間優先の考え方の大切さを理解させ，この解決には，計画的な対策が必要であることをつかませる。

⑷単元の流れ（予想）



―― 指導例 ――

T：今からスライドを写しますからよく見てください。

T：はじめに那須野が原の用水，三栗谷用水を写しますから気がついた点をカードに記入してください。

T：しばらく両方を写しておきます。

T：このスライドを比較して，何か気がついた点，ちがう点はありませんか，（事実の読みとり）

C：両方とも農業用水です。つけたし，ちがう意見ありませんか，田辺さん

C：江口君の考えと同じに農業用水にはかわりないのですが，三栗谷用水のほうは，取り入れ口の次

沈砂地があります。沈砂地があるこのてんに違いがあると思います。みなさんどうですか，つけたしちがう意見はありませんか。

C：全員が賛成…サイン

T：このことから問題を作るとしたら，どんな学習問題ができるだろうか。

C：なぜ沈砂池を作ったのだろうかという問題ができると思います。みなさんどう思いますか。
　全員が賛成

T：なぜ沈砂池を作ったのでしょう（板書）

T：予想を自分のカードにかいてみましょう。できたら班で話し合ってください。

C：使う水の量が多いため用水を分けるのだと思います。

T：班で調べてみよう　（事前に資料を用意）
　班の司会は社会係を中心に話し合いをする。

T：調べ終ったようですから一班の斎藤君発表してください。

C：ぼく達の班では，足利の原始から現代までの資料をつかって調べました。この沈砂地は，鉱毒をのぞくためにつくられたものということがわかりました。三班どうですか。

C：ぼく達の班も同じ意見ですが，一班につけたして土や砂を沈澱させ用水の水温をあげる目的もふくまれていることをつけたします。四班どうですか。

C：私達の班も一班三班と同じ意見です。ほかの班はどうですか。

C：各班も賛成

T：そのとおりですね…（カード）

T：鉱毒についての録音がありますから聞いてください。…（テープ）

T：いまの録音テープを聞いてまず自分でこれから調べたいものをカードに記入してください。
　記入が終った人は社会係を中心に班として調べたい学習問題を作ってください。
　班での学習は相互指名，ひとりひとりが課題をもっているので「僕は，いまのテープにもあるように干ばつの原因を調べたいと思うんだ。栗原さんどう思う。」私は足尾の鉱毒の原因がさきだと思いますけど……田辺さんどう思います……以上が班の会話の一部です。

T：調べたい課題が決まった班はカードを持って来てください。

C：一班　鉱毒はなぜおこったか。
　二班　足尾の鉱毒の原因は何か。
　三班　足尾の鉱毒の原因は何か，干ばつの原因は。
　四班　足尾の鉱毒はいつごろおこったのか。
　五班　足尾の歴史と鉱毒に反対した人
　六班　鉱毒を防く方法と現在の足尾についてどうなっているか。
　七班　鉱毒の原因と防ぐ方法
　以上がこれから調べていこうという各班の学習課題です。

T：一緒に調べることの問題をまとめてみましょう。長山君，新島君の二人でまとめてみよう。

C：僕は一班と二班と三班の問題が一つになり，足尾の鉱毒の原因でひとつのまとまりになると思い

ます。四班と五班の鉱毒はいつごろおこったかというのですから，五班の歴史と同じと考え，これを一つにまとめました。六班とも班の防ぐ方法が一つになると思います。各班いいですか。

T：長山君，新島君うまくまとめましたね。もう一度確認しますが，鉱毒の原因，歴史，防ぐ方法，という順序で調べて行きましょう。調べていくうちにぜひ調べたい問題がありましたら，またそのとき相談しましょう。

考察

この山辺地区に鉱毒と言う，公害があったのか，ぜひ調べ追求していきたいという意欲が高まったように思われる。実際に沈砂池という事実があることにより①で教材のねらいがぴったりした点にある。又録音テープを聞くことにより身近な問題としてより深められた。

④課題に取り組んだ子ども達の感想

A：加藤君の家の田の中にある沈澱池より，中川の沈砂地は長さが７０ｍもあり，ぼくはプールみたいな感じがした。鉱毒を防ぐのに，こんなにも大変なものを造らなければならないとは，思ってもいなかった。家族もつれていきたい。

B：田んぼの取り入れ口に小さい沈澱池，迂回水路があるとは思ってもいなかった。じっくり見たい

C：山辺地区が公害に苦しんだとは夢にも思わなかった。

D：私は田中正造の年表を作りながら一生農民のためにつくした人だということがわかりました。農民のために一生をささげる人が現在このような人がいるだろうか，公害防止には人々の努力が大切だなと思いました。

E：いくら産業が発達しても便利になっても，公害があるかぎり，決してよい市，よい国とは言えないな…

授業中に見学したときの様子や授業中の児童の感想を入れておきました。授業を通していえることは，身近な教材のため，どんどん発展し自主的に学習できた点，社会科は好きになったという児童がふえた点である。学ぶ楽しさを知ったのではないだろうか。

公害のおそろしさを感覚的，具体的にわかったのではないだろうか。以上が５年生の実践例です。

⑤資料

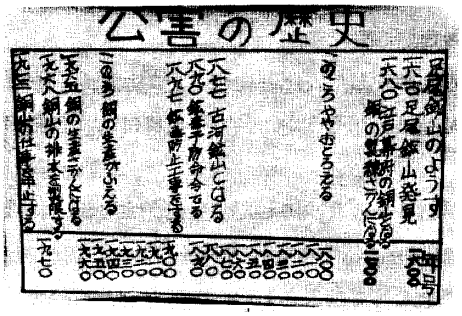
①防ぐ方法（見学）
田の中沈澱池（八幡町）
（直径２ｍ　深さ５０ｃｍ）
鉱毒，川砂を沈澱させる

②防ぐ方法

水田の取り入れ口，（八幡町）

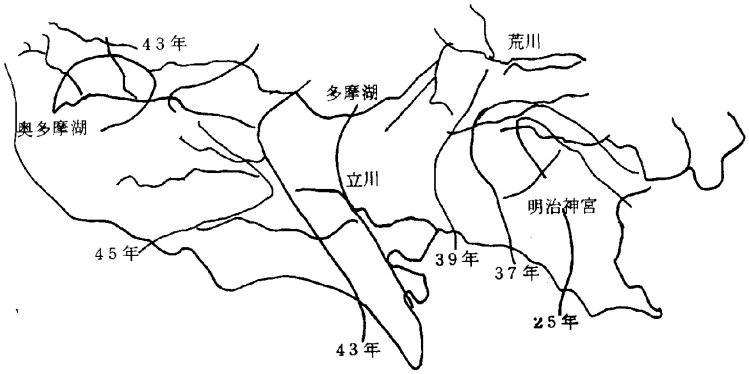
迂回水路（鉱毒，川砂を沈澱させて耕地に入れないように工夫

①子どもがまとめた足尾銅山の歴史



②子どもがまとめた田中正造について

③カワセミの退行曲線（子どものまとめ）



―― はカワセミが普通に見られる地域

1年の実践例　「学校ではたらく人」

新指導要領では児童自ら体験的な学習を通して確かな理解を得るための学習が必要である。これは児童の直接観察を重視したことはいうまでもないことである。そこで1年生の給食センターに見学に行った児童がどのように変ったか，生活ノートからここにのべたいと思います。

T：この給食はだれがどんなふうに作ったのだろう…　　センター見学

観察の結果，大きなかまを見てびっくり，ゴムの前かけをしていた，白い帽子，白衣，長グツ，等特にセンターのおばさんから，わたしたちのおばさんに変っている。資料から…「きょうカレーライスだよ」と言った。その時，松木君が帰るとき「おばさん，のこさずに食べますからね。」…つまり働いている人の苦労が一年生なりにわかり，協力する態度が育った。つまり働くという身近な教材をとおし，その子なりの社会事象に対する芽がふくらむだろう。

3年の実践例「わたしたちのくらしとごみ」

1. 単元のねらい

(1)学校，工場，私たちの家，近所の家から毎日たくさんのごみがでる。そしてそれぞれの集積所を決めている。

(2)それらのごみは，市の清掃課の人たちが清掃車で集めてあるく。また，町内ごとに集める日が決められている。

(3)市では，清掃作業場を二か所に設置し，そえで大量のごみを処理している

(4)それらの予算は，市議会で決め，市役所で働く人たちが実際の仕事を進めている。その予算は税金でまかなわれている。

(5)市役所では，安全で衛生的な町作りに努力しているが，まだいろいろな問題をかかえている。また「きれいな町作り」のために，市民の協力も必要である。

(6)父母，祖父母の時代とくらべて，ごみはくらべものにならないほど大量にでて，公害問題もおきている。だがごみ処理の方法は，合理的になってきている。

2. 実践意図

ごみの学習を展開するにあたって，学習者である子ども自身の生活とごみ，ごみの処理からどのような形で結びついているか探ってみた。すると，子どもたちにとってごみは，いらなくなってすてるもの，くさくてきたないもの，じゃまなものとしてとらえている。

またふだんは，廊下などに紙くずが落ちていても言われなければ拾わないで行ってしまうことが多い，まして，学校の外ではごみに対してほとんど無関心の状態であった。

そこでもっと子どもたちに，ごみを身近なものとして，真剣に考えようとする意識を持たせるためには，地域相互の組織的計画的な活動やそのしくみの理解だけでなく，自分とごみのかかわりに気づかせ，自分たちのくらし方を振りかえらせることも必要であると考えた。

(1)…の段階では1日にどのくらいごみがでるだろうか。まず学校じゅうのごみを教室にあつめた。クラス1つのポリバケツが32ケ集まった。家の3日分のごみも教室に集めた。（家のごみについては，なまごみは家においてくるようにと指導）児童達がこのごみの量が多いのに「うあ…きたないすごい量。」と驚いた。

ー授業の一部ー

C：私たちの家でこんなにごみがでるとは知りませんでした。４０人で山のようになるのだから足利市全体ではすごい量になってしまうでしょう。（実感をもたせる。）

C：教室の中がきたなくて掃除が大変だ。ぼく達があんなにごみをすてているのかな……市全体だったら大変なごみの量になる。市ではどんな方法でごみを処理しているのだろう。学習問題に入ったわけです。

C：ぼくの家では集積場にごみもっていくよ……（集積場見学　実地調査）……事実を知る

T：人口とごみの増加のグラフを示す。

C：人のふえ方にくらべてごみのふえ方がものすごい。

C：この調子でごみがふえていったら，しまつができないのじゃないでしょうか。

C：須永さんどう思いますか……

C：わたしたちがごみを出さないようにすればよいと思います。

最後に，ごみはどうしてもなくすことができません。そのためには，自分達が責任をもってしまつし，物を大切に使い，物を作ってくれる人に感謝しながら使いましょうとまとめた。……

考察

授業を通して言えることは児童自身が直接経験することにより身近な問題として考えることができた。子どもたちが自分のくらし方を反省する様子がうかがえた。子どもたちが自分達で資料を作り，実地見学をとおして実感で覚えたとき，主体的にとりくみ，この身近な教材（地域）子ども側に立つ教材といえるだろう。新指導要領４年の環境や資源の重要性について正しい認識を高める…教材に活用できるだろう。

5 おわりに

５年生の「足尾の鉱毒」から３年生の「わたしたちのくらしとごみ」について実践例をあげたわけですが，この事例を通して言えることは，子どもたち自身が学習問題に対してなぜだろう。どうしてだろう。もう一度見学に行ってみよう。そこでまた新しい問題が発見できる。疑問や矛盾をほりおこしているうち，市や県，日本全体と共通する問題に発展していくだろう。又教師自身が，地域社会の中からどんな事象を教材として選び，どんな観点から学習問題を設定するかということが地域学習を効果的に進める大切な要素となるのではないだろうか。実践記録としては不備な点も多いのですが，なにかのお役に立てたらさいわいです。

評

今回の教育課程の改善にあたっては，「授業改造」を中心に考える必要があると言われています。ゆとりと充実の問題も，授業の中でのゆとりと充実が図られないかぎり，人間性豊かな児童・生徒の育成もおぼつかないわけです。この実践記録は，児童の主体性を重んじ，疑問や矛盾を掘り下げ，問題解決への意欲づけを図るとともに，間接経験は多いが，体験の乏しい児童に直接経験の機会を積極的に設けるなど，いろいろと配慮と工夫のあとを見ることができます。そして，児童の感動を大切に考えたり，学ぶ楽しさを経験させたりした結果，社会科が好きになったという児童が増えたということはすばらしいことです。一緒に考える楽しさ，学ぶ楽しさを経験させることによって，生涯教育の時代において，一生学習しようとする構えができてくるものと思われます。また，先生の創意と工夫によって，児童の創造力も伸びていきます。授業の中には，創意と工夫の余地は，非常にたくさんあると思います。　益々の御活躍を期待いたします。